

「自尊感情」

大谷 幸男

我々が生活する社会における犯罪等の反社会的行動の多くは、それに関わる個人の自尊感情の欠如や低位にあることと関連しているという話を読んだことがあります。もしそうであれば、私達の^{あんねい}安寧な日々の生活は、社会構成員の自尊感情の有無や高低に左右されることになり、事はやや重大であると思われま

令和3年5月27日に、小6(国・算)、中3(国・数)を対象として、文部科学省による「全国学力学習状況調査」が、コロナ禍により2年ぶりに実施され、本市からも中等教育学校を含む163校が参加しました。この調査には学力問題とは別に、「生活習慣や学習環境等」に係る69項目の、^{たき}多岐にわたる質問が設定されております。その中で、私自身が注目したのは、「自分には、よいところがあると思う」という質問であり、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」の中から回答するものです。この質問は、まさに子ども達の「自尊感情」の有無や高低が尋ねられているものと考えられます。

とあるテレビ番組に、各界著名人の家族の歴史を、本人に代わって番組が徹底取材

するものがあります。その結果初めて明らかになる事実に驚きあり、感動ありのドキュメントです。私自身も視聴して、ゲストの方々の感動や涙のお裾分けを時として頂くことがあります。どうしてゲストの皆さんに、大きな感動が生まれるのでしょうか。それは、自らの確かな「アイデンティティー」を確認できたことによるものと考えております。

例えば、曾祖父母、祖父母、父母等が様々な苦勞を重ね、困難を乗り越えてきた家族の歴史が明らかになり、その結果として現在の自分があるという、いわば生命の厳粛なる連続性を認識することになります。そして祖先の方々から頂いた尊い生命を決しておろそ疎かにせず大切にしながら、この世の中の唯一無二の存在として、自分自身のこれからの人生への思いを新たにすることになります。

自己の「アイデンティティー」の確認は、まさに自尊感情の土台になるものと考えます。私は、自身の不徳の致すところではありますが、不登校等子育てで悩みました。しかしながら、二人の愚息達が、少しずつではありますが変化して行った「契機」といったことに思い当たります。それは、私達夫婦と同居していた私の両親（それは可愛がってくれた彼らの祖父母）の「病と死」に否応もなく直接向き合ったことです。彼らは、悲嘆の涙にくれる中で、生命の連続性を含め自分自身の拠って立つ所や在り方に様々な思いをめぐ廻らしたもの思われます。

核家族化が進む中では、親族の「死」と直接的に向き合うということは、中々あり得ないことですが、保護者の皆様方にはお盆などの機会を捉えて、積極的に家族の歴史を子ども達に語ってあげたいかがでしょうか。また、これは宗教や宗派によって方法は様々だとは思いますが、例えば我が家でいえば、機会ある度に仏壇にお線香を上げ、お墓参り等を行いながら御先祖様に心を込めて向き合うように心がけております。

私自身小中学生の孫達と、私の両親の実家を訪ねますと、今まで知り得なかった私の両親のこと、その兄弟姉妹のこと、更には曾祖父母のこと等がわかり驚きに捉われます。時として孫達も目を丸くすることもあります。

文部科学省の分析では、前述の「自分には、良いところがあると思う」という質問に対し、「当てはまる」と答えた児童生徒ほど国語、算数(数学)の正答率が高いという結果が報告されております。

ちなみに本市の前記調査の当該質問については、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた数字が、小学校88.2%、中学校85.9%と、全国平均をそれぞれ11.3%、9.7%上回るという喜ばしい結果が出ています。今後、「当てはまる」の回答率が上がるなど、より望ましい方向への進展が望まれます。

自尊感情と正答率にはあたかも因果関係があるかのように見受けられます。もちろんそうかも知れません。しかし一方で、私自身のささやかな経験では、確かな学力を身に

付けること、そのことが自尊感情を高めることにつながるのではないかと考えております。

学習の過程で、「出来た！」「分かるようになった！」「身についた！」「やった！」という喜びや自信が、自尊感情の醸成につながるものと感じております。

学校における先生方には、子ども達が学習の基礎・基本や確かな学力を身に付け、学びの喜びを実感できる指導の工夫や実践を是非お願いしたいと思っております。またこうした喜びや感動は、教科・科目の学習ばかりでなく、学校行事、HR活動、部活動等教育活動の様々な場面で実感できます。

子ども達は、努力の結果や成果が保護者、先生方等に褒められ、評価されることでじょうじゅかん成就感や達成感を味わいます。こうした経験の積み重ねこそが、子ども達自身の自尊感情を育むことに繋がるものと確信しております。

自尊感情が確かな学力の育成につながり、また教科・科目の学習を初めとした様々な教育活動での成果が自尊感情の高まりにつながるといういわば「正のスパイラル」的な循環をしているのではないかというのが私の結論です。この循環は必ずや子ども達に望ましい変容や成長をもたらすものと考えます。

私達教育委員会は、今後とも保護者、教職員、地域の皆様方と手を携えて、子ども達が健やかに成長し、社会の形成者となるよう取組んで参ります。

[2021.10.1 掲載]